

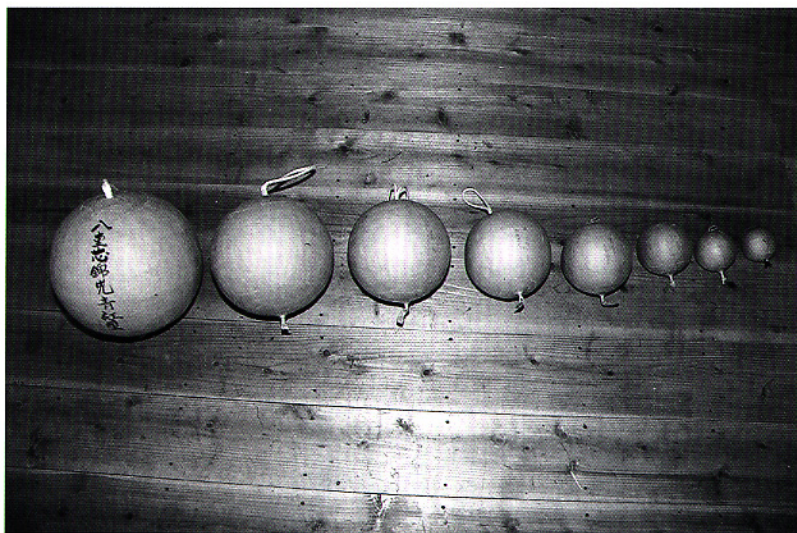
る花火。一番よく知られているものが、一方向に光を放ちながら落ちていく「柳」やなぎです。

花火の大きさ

花火の玉の大きさは号数で表わします。古くから使われている尺貫法しゃっかんぽうの寸すん（一寸は約三センチメートル）を基準にしたもので、三号玉は直径三寸、約九センチメートルの玉ということになります。単独で打ち上げるものとしては、小さな二号から最大級のもので四十号まで、さまざまな大きさのものが作られます。尺貫法のなごりから、十号玉は今でも「尺玉」と呼ばれることが多くあります。

実際の玉の寸法は、きつちり五号なら十五センチメートルかというところではありません。打ち上げる時に使う筒の直径が十五センチメートルになるため、玉の大きさはそれより小さめ

に作られます。また、花火の種類や作る人によっても大きさは微妙に違ってきます。



(右から2.5、3、4、5、6、7、8、10号玉)